

こうかい ひこうかい べつ
公開・非公開の別

■ 公開 □ 部分公開
□ 非公開

第8回浜松市外国人市民共生審議会会議録

1 開催日時 令和7年6月4日（水） 午後6時00分から午後7時30分

2 開催場所 浜松市役所 本館8階 第4委員会室

3 出席状況

委員 アルバレズ アントニ
川越 レニ
クマラプラタマ
シム キュマン
妹尾 圭持
只尾 ジェニファー
丹野 清人
トリゴエ デイゼ マミ
（敬称略・五十音順）

事務局 国際課 課長 松井 由和
国際課 課長補佐 古橋 広樹
国際課 主任 外山 裕太

4 傍聴者 3人（一般：2人、報道：1人）

5 議事内容

多様性を生かした文化の創造・地域の活性化について

6 会議録作成者 国際課 外山 裕太

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 **有** 無

8 会議記録

1 開会・挨拶 《国際課長挨拶》

2 多様性を活かした文化の創造・地域の活性化について 《事務局から説明》

- ・審議会の提言書提出のスケジュールを考慮すると、具体的な議論をできるのは今日を入れてあと数回となる。
- ・**テーマ3** 多様性を活かした文化の創造・地域の活性化については、第5回から第7回までの審議会で話し合いをしてきた。
- ・これまでの意見に加えて、本日は外国人市民の地域コミュニティ参画を促進するための具体的な方策について、特に意見をいただきたい。

《委員了承》

3 多様性を生かした文化の創造・地域の活性化について

川越委員

地域参画の方策として、スポーツやクッキングなどが考えられますが、中でも絵本が良いと思います。外国人市民は、仕事等を通じて日本語を話すことができるようになりますが、読み書きは難しいことが多いです。働く人が増え、子育て世帯も増えているため、それぞれのニーズにあった日本語を、小さなグループ単位で、絵本を読む機会を設ける、ということはいかがでしょうか。

アルバレス委員

イベントを開催しても、そのコミュニティの関係者以外があまり参加してくれないことが多いため、日本人、とりわけ無関心層がどうそのイベントに参加できるか、ということが課題だと捉えています。

川越委員

様々な団体に顔を出して、貸し借りを作っておく積み上げをしておくことは大切ですね。

クマラプラタマ委員

食べ物や踊りなどを主にしたイベントは、面白いと思ったら日本人も来ます。日本人も参加するためには、日本人のグループがイベントに出演できるようにしないといけないと思います。楽しくイベントが行われるのが、日本人にも参加してもらうには一番良いですね。

トリゴエ委員

在浜松ブラジル総領事館がブラジル人と日本人とが交流できるよう色々なイベントを行っており、日本人向けのイベントも行っていますが、参加するのはブラジルに住んでいた日系人たちだけになってしまうという課題を感じています。

丹野委員長：

日本の社会は高齢化している一方、外国人は労働者層が多く若い人が多いため、国籍の問題と同時に世代の問題が存在しています。日本人に参加してもらうということを前提にすると、対象が高齢者にならざるを得ない構造になっているので、難しいのではないのでしょうか。

只尾委員

宗教に関連する話になりますが、誰でも参加できる所は教会だと思います。食べ物やビンゴなどのイベントがあり、知らない人も参加でき、フィリピン人だけでなく日本人も参加しています。そこで「カナルハママツを知っていますか？何か生活で困ったとき、このサイトでは英語で調べられますよ。」という話をしたとき盛り上がりました。

丹野委員長

宗教イベント等、活用できるものは活用したほうが良いですね。行政にとっては難しいと思いますが、宗教団体がやっているイベントにも色々な広報物を置いてもらって、活用するという事も考えられます。

話題が変わりますが、外国人の問題が日本国内に閉じていないという事例があります。例えば、ある日本では進学できなかった方がインターネット上で大学に通っており、相当な金額を入学金として振り込んだ後にその学校自体が無くなってしまった、という問題も生じたことがあります。他には、フィリピンにもあるプロムの文化に関連した事例があります。日本からフィリピンのプロムに応募したケースがあり、その周囲からは詐欺だと言われていたが、その人自身が得る外国のインターネット情報を信頼して数十万円を入金したところ、渡航直前でそんなプロムはないということが発覚して大騒ぎになったというケースもあります。

日本で暮らしている外国人たちにとって、本国についての信じていい情報と、そうでない情報をわかるようにするという事は重要であり、そのためには普段から人と会う機会が必要です。普段会っている人がいれば、信頼できる相談先ができるので変な情報には引っかからないが、普段会う人がほとんどいないと、ちょっと考えればわかるような、海外からの情報などついに引っかかってしまうということになります。

川越委員

信頼できる情報、という話題ではAI関連の話題も怖いと思います。今はまだ、人対人の関係が大事になっているものの、覚悟はしているが、AIは翻訳速度が早いので、段々と翻訳の仕事も要らなくなってしまうかもしれないと考えています。

アルバレス委員

確かに、AIは難しい内容ほど正確に翻訳してくれますよね。私はAIを肯定的に捉えており、アイデア出しを、自分では3-4時間かかっていたのが非常に短い時間で対応できています。

ところで、一個前の話題に戻しますが、オクトーバーフェスは成功事例だと思っています。参加者の8割、ほとんどが日本人でした。これはブラジル系のイベントだと理解していましたが、なぜ日本人に受け入れられているのでしょうか。

事務局

最初の頃、オクトーバーフェスへの出演アーティストのほとんどがブラジル国籍でした。一方、イベントの実行委員会は、日本人にイベントをもっと知ってもらいたいという課題があり、対策を実施していきました。日本人だけでなく、いろんな国のアーティストも呼び、時間帯も国籍でまとめるのではなく、交互にやれば参加者はそこで滞留する、ということを行い、色々な国籍の方があつまる仕掛けにしていきました。

アルバレス委員

基本無料のイベントだったと記憶していますが、行政だけがやっているのでしょうか、それともスポンサーが入っているのでしょうか。

事務局

スポンサーが入っています。オクトーバーフェスとスプリングファンフェスは無料とする一方、ブラジリアンデーは当初無料だったものを、現在はワンコイン制の有料にして、現在ではイベント毎の棲み分けがされています。

アルバレス委員

やるなら、小さいイベント一つではなく、大きいイベント一つ開催して大きく巻き込んだほうが現実的かもしれないですね。既存の何か国をテーマにしたフェスを幾つも実施するのは、それはそれでいい点があるが、交流を目的とした場合には違うのかもしれない。

川越委員

インドネシアのフェスティバルは、インドネシアということをメインで行っています。ただし、インドネシアの楽器を持っている日本人グループが来るので、その人が友達を必ず呼ぶため、日本人の来場者があります。さらに、静岡文化芸術大学の学生がバリの舞踊を踊っています。踊るときは、黙って踊っているのが国籍がわかりませんが、喋りかけて初めて日本人だとわかります。その点、このフェスティバルの売りでもあると考えています。そういうやり方をやってみるといいと思います。

アルバレス委員

他国で自分たちの文化を祝うのは良いですね。一方、浜松インドネシア友好協会のイベントは、交流という意味で毎年規模が大きくなっていると認識しています。

丹野委員長

確かに、あんなに人が集まっているのは見たことがありません。

川越委員

独立記念日では、インドネシア人だけのイベントを中田島公園で行っています。そこでのイベントはインドネシア人だけに向けたものですが、日本人もウェルカムとしています。教育面を考えると、子供もいっぱい巻き込んだイベントがしたいですね。

丹野委員長

大きいものと機能別をやる、という考えかたがあります。例えば、教育に関するイベント、生活に関するイベントなど、複数あっても良く、大きなイベントでは弁護士が出展して法律相談もできるようにするなどがあっていいと思います。

アルバレズ委員

確かに法律相談は需要があり、「多文化SHIZU カップ」では不動産等、イベントとは直接関係ないブースを出展してもらっており、意外と来客がありました。普段、そういった専門相談にいけない人が、イベントで出展されているブースに多く来ます。

私個人宛にも普段、「弁護士を紹介してください」という相談が来ます。私は弁護士を直接知らないため、浜松市多文化共生センターや法テラスを紹介しています。直接的にどこへ相談したらいいかを知らない人が多くいるため、イベントで相談ブースを設けるのも効果的だと思います。

妹尾委員

在留資格に関してはむしろ弁護士は知らないことが多く、行政書士のほうが適しているケースがあります。まずは、多文化共生センターに行き行って相談するのがよいと思います。

アルバレズ委員

外国から来たばかりの方に関する相談ではなく、長い期間日本に在住しているからこそ出てくる問題に対する相談は、今後増えると思います。第三、第四世代は日本生まれ日本育ちの人たちであるため、在留資格更新などは、行政書士に頼んでいることが多いのではないのでしょうか。日本にいたるために大事なことなのに、詳しくわかっていない人が多い内容なのだと思います。

只尾委員

最近ではペルー人とフィリピン人の夫婦や、フィリピン人とブラジルの夫婦というような国際結婚のケースを多く見聞します。ブラジルから入ってくる情報と、フィリピンから入ってくる情報がそれぞれあるものの、日本にいとわからないことが多い、というケースです。

丹野委員長

日本人が高齢化しているため、結婚しようとするとな必然的に若者の外国人同士が結婚するので、外国人同士の国際結婚は、これから一層増えると考えられます。

アルバレズ委員

子育て支援がどんどん大変になりますね。

丹野委員長

子育て支援はいろんな機会、絶えず伝えていかないといけない情報ですね。

学校関連の話題では、外国人児童は何月でも入学してきます。4月も、7月も11月に入学する児童がおり、入学時期は人それぞれです。つまり、子育て支援に関する情報は、絶えず知る機会

を作っておくことでしか対処できないという状況です。

只尾委員

フィリピンは、6月が学校の年度区切りとなっており、3月や4月には日本には殆ど来ません。フィリピンの学校のスケジュールに合わせると、2か月遅れたタイミングで入学になってしまいます。

シム委員

今日読んだ本に、4月から学校がスタートする国はほとんどない、と書いてありました。1年で2学期ある国も、2学期の国もいろいろあるため、国が異なると卒業と入学のスケジュールが違いということまで、来日する人には考える余裕はないだろうと思います。

アルバレス委員

ペルーの節目は12月です。日本の感覚で言うと7月の夏の時期ですね。

トリゴエ委員

ブラジルは2月からが、学校のスタートになります。

丹野委員長

だからこそ、イベントを1回だけでなく、定期的に開けるようになるものを考えていく必要があると思います。機能別のイベントをたくさん実施するのは難しいので、一年の中で時期ごとにテーマを定めるなどの仕掛けをしながら、外国から来て暮らす人たちが必要な情報を得る機会を確保していくことに結び付けたいですね。

アルバレス委員

時期を定めて、誰もが参加できるイベントがあったほうがいいでしょうね。そうすれば、認知度は上がっていく。何年か継続して定着するようになれば、母の日のカーネーションのように、記念の品が販売されるなどにつながり、一種の販売・イベントのきっかけにもなります。

多文化について考える、という意識にあるだけでも大きな進歩となります。学校にも普及していくといいですね。

川越委員

学校での多文化共生に対する普及啓発が一番いいと思います。

アルバレス委員

学校では多文化共生を考える授業というものを既に実践がされていて、先日、講師として中学校に招いてもらいました。また、それ以外にも、ある団体からの依頼で大人を対象に多文化共生に関する講演をしました。

大人と中学生には、同じ内容の講演を行い、同じように多文化共生を実現できるか、という質問をしました。大人対象の講演は高齢の方が多く、多文化共生を実現できると思うかという問

いに「できる」と答えた方は、0%でした。これは納得できる数字ではありません。

一方、中学校に聞いたときには、65%が「できると思う」、35%は「難しいがなんとかなる」という結果でした。世代間でこれだけ、差がある結果となりました。

丹野委員長

上の世代は、”浜松人”になっているのに対して、下の世代は”地球人”になっていますね。また、年齢を重ねると生活空間が狭くなっていくので、余計に多文化共生の必要も感じなくなってくるのだと思います。

アルバレス委員

大人になると他人の嫌な部分が見えやすいです。最近のニュースでは毎日、外国人の事案がでています。一方、子供たちにとっては、悪いところが見えておらず、クラスに外国人がいるのは当たり前だよ、という認識のようです。

丹野委員長

学校で積み重ねていくというのは大事で、10、20年後の将来に影響していきますね。

事務局

誰もが参加できるイベント、という点では、多文化SHIZU カップや、チャレンジインクルーシブ in 浜松などの、国籍や世代問わず参加できるイベントがあります。例えば、チャレンジインクルーシブ in 浜松は、子育て世代、高齢者、様々な国籍でも関わることができ、イベントの中身も、玉転がしや、ブラインドサッカー、色々な国のスポーツ競技などが、盛り込まれているので、誰でも参加できるイベントとなっています。

アルバレス委員

私も去年は、チャレンジインクルーシブ in 浜松には、出展もしたし、外国人ボランティアとしても関わりました。非常に高評価だったようです。今回はアクトの展示イベントホールを会場に実施するため、収容人数は大きくアクセスも良いイベントとなりますね。

川越委員

展示イベントホールといえば、すぐ近くの浜松市楽器博物館で、インドネシアの楽器に関する企画が6月にもありますね。

アルバレス委員

5月までは浜松市楽器博物館は南米をテーマに企画を実施していました。ペルー料理屋まで館長が直接来られて、チラシを配付されにきましたし、何度か交流しています。展示イベントホールと楽器博物館が近いので、メキシカン料理、ベトナム料理などタイアップして、何%オフとか。イベントの帰りに、街中を周遊してくれる仕掛けがあるといいですね。

丹野委員長

こういったイベントを活用して、是非、法律相談ブースも出展してもらいたいです。また、大きなイベントを定着させつつ、核として、ほかのイベントは駅前や離れた場所でやるなど、一年中どこかでイベントがやっている仕組みになるといいと思います。

アルバレス委員

例えば、皆さんがよければステージのプログラムの一部の時間を借りて、この審議会の発表などを行ってみたいです。

川越委員

「外国人市民共生審議会」というものがあり、次回はあなたが出るかもよ、とPRしたいですね。市長に提言を渡す、という位のものをやっていることを皆さんに知っていただきたいと思っています。

丹野委員長

江戸時代の目安箱のようなものを通じて、審議会自体の周知と、意見を出してもらうための“ご意見箱”というスタイルも考えられます。また、イベントの機会に、どうすれば外国人とお互い仲良くなれるのか、日本人から見て外国人はどうなのか、など日本人にも意見を聞く機会があると良いですね。

川越委員

国際課では、外国人市民共生審議会を周知する機会を作れないでしょうか。

丹野委員長

町内会・連合会の会長などを対象に直接投げかける機会はないでしょうか。

事務局

国際課が主催している「地域自治会共生会議」というものがあり、そこに出ていただくのは可能です。

丹野委員長

自治会でそういった会議に参加する方々は、日本人コミュニティ側のまとめ役の人と言えます。その人たちにうまく伝えたいですね。

川崎市では代表者会議のOB会が作られており、その総会や市の色々なイベントで代表者会議の方歴代の携わった人たちが参加しているようです。関わった人たちが今後も継続して関わってくれる、という仕組みを考えてもいいかもしれないですね。

代表者会議に関して、川崎市は人口比に応じてランダムに選び取るようにしています。長期で住む人だけでなく短期で住む人が含まれるため、留学生など短期の滞在者が増えると必然的に短期滞在者の視点が議論されやすくなります。そうすると、長く住み続ける人や、子育てして次の世代も住む人などの意見が提言される仕組みとはならないという点は気を付ける必要があります。

さて、今回までの議論で、意見は出そろってきたと思います。それでもまだ足りないというところ

ころがあれば、次回に議論をしましょう。

《委員了承》

《事務局から今後のスケジュール説明》
第9回を7月ごろに開催し、第10回を8月上旬で最終確認して、9月に提言をするということ
をスケジュールとして考えている。

4 閉会